



第7回 周船寺中学校開校準備委員会

日時:令和7年8月25日(月)15時00分～

場所:周船寺公民館 講堂

～会議次第～

1 事務局より報告

①事務局に寄せられた意見について

資料1

2 議事

①校章の検討について

資料2

②校歌の検討について

資料3

3 報告

①通学路の整備について

資料4

3 連絡事項

○第8回の開催について(予定)

日程:令和7年11月中旬

議事:通学路の整備について

開校準備の経過報告について

事務局に寄せられた意見について(メール3件、FAX1件、電話1件)






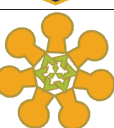

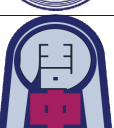





①校章について

- デザインが色々あるが、今風である。
- 小学校が土台となるため、周船寺小学校の校章の「小」の文字を「中」に変えるだけでも良いのではないか。

②校歌について

- この校歌の感じだと、周船寺中学校というより西都中学校の感じがする。
校歌の最後には学校名が入るイメージが多く、わかりやすさと親しみがあるため、「周船寺中学校」という言葉をどこかに入れた方が良いと思った。
- 中学校名は周船寺中だが、校歌の中身は西都中に決定したのではないかという印象を受けた。
- 周船寺の船でまとめてあるが、最初と最後に西の都とあれば西都中を連想する。
- 花火と書いてあるのに鐘撞山というのも気になる。周船寺の花火は丸隈山の大祭である。
- 周船寺と西都の子どもが通うので半分ずつだと思うが、周船寺中と決まったならその名前を残してほしい。
- 元岡中は最初から2つの地域で成り立っているが、元岡中の校歌。大人のことで子どもたちが自分たちは周船寺中と言えるよう、子どもの立場で検討していただきたい。現在、周船寺地区の子どもが元岡中に通学しているが何も問題はない。
- 全体的にかたい感じで親しみやすさが足りないと感じた。
- なぜ丸隈山ではなく鐘撞山なのか。周船寺に住んでいるが初めて聞いた。
- 曲の感じがわからないが、子どもが思わず口にするような校歌にしてほしい。

① 校章の検討について

NO	校章案	周船寺校区 自治協議会	周船寺 公民館	周船寺 小学校 PTA	西都校区 自治協議会	西都 公民館	西都 小学校 PTA	元岡 中学校 PTA
1								
2					○	○	○	
3						○		
4								
5				○	○	○	○	○
6					○		○	○
7					○	○	○	○
8		○	○	○				
9								
10								
11		○	○	○				○
12								
13		○	○	○				

②校歌の検討について

周船寺中学校 校歌歌詞

作詞 桑原 拓也
作曲 市原 匡貴

西の都から 船が往く船が往く
律ある力が帆を広げ 古が未来照らす
水面に映る花火のよう 道は果てしなく広がって
鐘撞山に見守られ 新たな学びへ舵をきる

新しい日々へと 船が往く船が往く
宮崎開きの大地に 根をはり歩んでいく
朝日に照らす道しるべ 共に旅立つその日まで
喜び合い夢を紡いで 違いの中にぞ愛がある

彼方星を目指し 船が往く船が往く
自らの道を切り拓け 光に満ちた未来
夢語る時の尊さよ 始まりを作り花開け
創造 行動 滾らせて 素晴らしい過去を越えていく

西の都から 新しい日へと 船が往く

周船寺中学校校歌

作詞：桑原 拓也
作曲：市原 匡貴

6
1A にしのみやこから - ふねがゆくふねがゆく りつ

10
あるちからがほをひろげ いにしえがみらいてらす みな

14
1B もにうつるはなびのよう みちははてしなくひろがって かねつきやまにみま

19
もられ あらたなまなびへ かじをきる

23
2A あたらしいひびへと ふねがゆくふねがゆく みや

27
ざきびらきのだいち - に おをはりあゆんでいく あさ

31
2B ひにてらすみちしるべ ともにたびだつ そのひまで よろ

35
こびあいゆめをつむいで ちがいのなかにぞ あいがあ

39
Inter える

43
3A かなたほしをめざし ふねがゆくふねがゆく みず

47
からのみちをきりひらけ ひかりにみちたみらい ゆめ

51
3B かたるときのとよ ときよ はじまりをつくりはなひらけ そう

55
そうこうどうたぎらせて すばらしいかこを こえていく

60
End にしのみやこから - あたらしい ひへと ふねがゆく

② 校歌の検討について

周船寺校区 自治協議会	<p>①『西の都』→『西の港』 「周船寺」は昔から謂れのある土地ではあるが、「都」ではない。歌詞全体に船の表現があるので「西の港」でどうか。</p> <p>②『鐘撞山』→『丸隈山』 「鐘撞山」は周船寺住民に深く認知されていない。周船寺中学校の真ん前には歴史的価値のある「丸隈山古墳」があるので「丸隈山」でどうか。</p> <p>③『始まりを作り』→『始まりを創り』 「何かを始める、ゼロからつくりあげる」といったニュアンスが必要な時は、「創る」が適切ではないか。</p> <p>④『滾らせて』→『たぎらせて』 意見を求めたほとんどの人が「滾らせて」を読めなかった。調べてみると常用漢字ではないとのことなので、義務教育学校の校歌なら「たぎらせて」でどうか。</p>
周船寺 公民館	<p>⑤『花』『夢』の草冠について フォントの関係であろうが、草冠の横画が切れているので、つながったものにする。</p> <p>⑥『最後の一文』について 1番、2番、3番で完結しているのでは、なくてもよいのではないか。</p>
周船寺 小学校 PTA	なし
西都校区 自治協議会	歌詞の変更なし 曲の変更なし
西都 公民館	なし
西都 小学校 PTA	そのままの歌詞が一番しっくりくると考えている。
元岡 中学校 PTA	なし



県道周船寺有田線 計画平面図

A1 1: 500
A3 1:1000

NO	道路名	整備 (案)
①	県道周船寺有田線	原状復帰、歩道整備、横断歩道設置 (警察施工)

